

令和4年度

木屋平小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数学級での指導を工夫し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- 自主的・主体的に学習に取り組み、児童同士のコミュニケーション力を育成する。

学力向上検討委員会構成

- | | | | |
|---------|----|--------|-------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 | 重本 哲也 |
| 大西 杏子 | | 生徒指導主任 | 福田 彪 |

校長

重本 哲也

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や方策の掲示など常に意識し確認できる環境づくりによって取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算など、各学年の知識・技能はある程度定着が見られる。 ●知識を関連づけたり技能を組み合わせたりする応用力に課題がある。語彙が少なく、正しく読み解く力も低い。	・各学年で習う漢字や計算など、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・習得した知識や技能を学習課題や日常生活に活用できる。 ・文章を正しく読み、内容を正しく理解することができる。	・朝の活動の時間に週2回は漢字や計算の反復練習を行う。 ・言語活動を工夫し、生活に関わる活用場面を意識付ける。 ・主語述語の関係に気を付けて読んだり、分かっていることに線を引いたり、読み方の練習を各教科で繰り返し行う。	・月に1回基礎基本の定着を図る確認テスト「こやだいラーニング」を行う。	・朝の活動に週2回は反復練習を行うことができた。また、月に1回こやだいラーニングを行い、定着を図った。 ・言語活動を生活との関わりを意識した活動に設定することができた。 ・主語述語の関係を考えながら読むことはできたが、分かっていることに線を引きながら読むときは線を引きすぎてしまうことがあった。	基礎基本の内容をくり返し練習して定着を図り、定期的に活用場面を設定して応用力を付けていく。また、主語と述語に気をつけて文章を読んだり書いたりできるように、指導方法を工夫していく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○簡単な言葉で自分の考えを伝えたり、気持ちを表現したりすることができる。 ●学習に必要な情報を探したり、考えをまとめたりすることに課題がある。また、相手の話を正しく聞く力が低い。	・図書やICTを使って、必要な情報を探したり得たりすることができる。 ・探した情報が必要かどうか判断し、それを基に自分の考えや思いを表現することができる。 ・相手の話を最後まで聞き、正しく理解できる。	・ホワイトボードやICTを活用して、効果的な発表や話し合いを各授業で行う。 ・朝の活動の時間にドリルやプリントを用いて週1回は読み取りの練習をする。 ・他校との交流を通して、相手の話を聞く力や自分の考えや思いを伝える力を育む。		・ホワイトボードやタブレットを適切に活用した発表や話し合い活動ができた。 ・朝の活動で週1回読み取りの練習をすることができた。 ・他校との交流を通して、日常生活でも相手の話を最後まで聞こうとしたり、より具体的に話そうとしたりする姿勢が見られた。	相手や目的を意識しながら物事を順序立てて表現させるようにする。また、自分の考えや思いをより効果的に伝えられるようにICTの活用場面を増やし、自分に合った表現方法を選んだり工夫したりできるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○様々なことに興味・関心を持ち、進んで活動することができる。学習態度も落ち着いている。 ●学びを積極的に活用することに課題がある。また、家庭学習が定着していない児童もいる。	・課題や自主学習にめあてをもって取り組むことができる。 ・各教科で学習したことを関連付けて、課題を解決することができる。 ・早寝早起き朝ご飯の基本的な生活習慣を身に付けることができる。	・毎時間授業のめあてを提示し、学びの方向性を示す。 ・各学年に応じた振り返りの視点を示し、記号や記述により振り返らせる。 ・「家庭学習の友」を活用し、学年×10分程度の家庭学習の定着を図り、月に1回振り返り意識付けをする。		・授業のめあてを提示することで、学習に積極的に取り組むことができた。 ・学年や教科に応じて振り返りの視点や方法を工夫し、振り返りを行うことができた。 ・「家庭学習の友」を活用し、月に1回振り返りをするので、テスト前などは、自主学習をするようになり、家庭学習が定着してきた。	自己決定の場を増やしたり、活動内容の工夫をしたりすることで達成感や自己有用感を育み、自分が苦手な課題にもしっかり取り組むことができるようにする。家庭学習にも目標を設定し、主体的に取り組む態度を養い定着を図る。

令和4年度 学力向上ロードマップ



